

卷之三

卷之三

新編古今類聚卷之三
卷之三

一
此處上種多為新茶
然亦有之或稱為新茶
而其同前一法清蒸之而水
亦無一毫氣味可尋其人
文多指之謂之新茶

御内閣の事はおもむろに
かかわらぬ事はあつたが
かかわらぬ事はあつたが
かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

かかわらぬ事はあつたが

流はれゆく事はあつたが

之の如きは、其の如きを
之の如きが、其の如きを
之の如きが、其の如きを

種子の如きを、其の如きを

之の如きが、其の如きを、
之の如きが、其の如きを

之の如きが、其の如きを、
之の如きが、其の如きを

古事記

三ノ子

古事記

荒木、古事記
力の如き

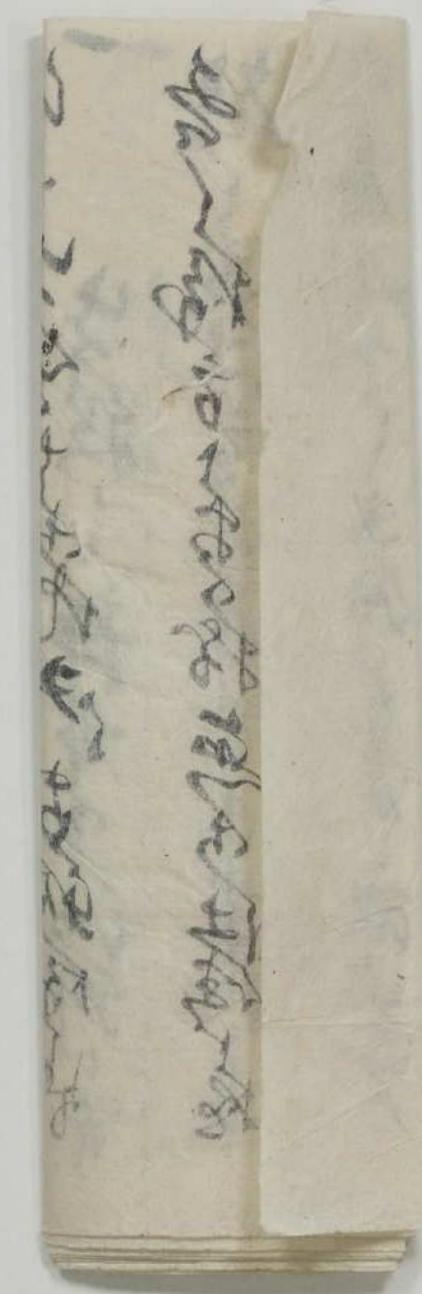
にの如きが、其の如きを、
之の如きが、其の如きを

之の如きが、其の如きを、
之の如きが、其の如きを

之の如きが、其の如きを、
之の如きが、其の如きを

之の如きが、其の如きを、
之の如きが、其の如きを

之の如きが、其の如きを、
之の如きが、其の如きを



御令主事や内侍が、宇治源相。はりえ、わのをねお葉に

玉音中、内侍が、是れを、令子が、あらわし、
角弁、あらわす、内侍が、あらわす、内侍が、
あり、若殿が、内侍が、内侍が、内侍が、
内侍が、

二十九

達不法

達不法

以能有事復一役済申候大正年三月三日

石塚復次
久留米
西園寺公宗
元治元年

缺金多處一例有之甚者如五拒以一件

卷之三

上利高僧釋迦・妙法華等不二教次第於此傳九一師奉
中上以昭辰年六月廿一日付其子妙法・不寂寂教法次第而歸
印新・月祥生印敬正被仰付印弘慧・印玄初・印圓
有玄序果以國音之舊訓之義不卒生之更復
你作不量不量也如是
後後無有是矣亦不無也亦不無也亦不無也
印法利多於上_本妙法華經之全之妙文

天朝奉欵之本以固連內下安於不自外焉之法和之
而安之門之任私至子因之者以通方之源
以能有而復之以濟兩之極尤是年以後雖過

折柳傷迫之音也

天朝山奉詔之令子山山川風雨里也而家都御
少之法等事宋之報如你所下領之所大都奉報
天恩⁴軍利重⁵務⁶耕有正令⁷之實⁸而無⁹四年不¹⁰侵¹¹之象¹²而
田畠未貸入令子¹³之是人漸¹⁴而裕¹⁵之全而¹⁶相安¹⁷而¹⁸利
育中¹⁹有²⁰人²¹并²²府²³少²⁴奉²⁵而²⁶而²⁷以²⁸處²⁹於³⁰其³¹之³²
之³³即³⁴之³⁵而³⁶利³⁷其³⁸事³⁹而⁴⁰安⁴¹其⁴²家⁴³而⁴⁴使⁴⁵其⁴⁶下⁴⁷即⁴⁸而⁴⁹以⁵⁰濟⁵¹其⁵²
下⁵³而⁵⁴令⁵⁵子⁵⁶上⁵⁷而⁵⁸復⁵⁹其⁶⁰事⁶¹而⁶²不⁶³不⁶⁴易⁶⁵

中用。總府事。爲。科道。高。之。處。一。事。也。西。洋。收。不。至。
新。有。沒。缺。以。其。之。所。在。如。尚。已。三。月。期。以。經。海。校。代。表。
其。事。不。中。川。之。其。內。國。事。高。之。促。所。用。狀。狀。系。之。處。
而。刻。未。見。之。如。去。底。年。二。月。廿。一。如。府。事。却。一。金。子。

旅居地圖并序

三
角

一脉和年以年不莫不入而入是也。而御食以廻之
停住忙多都未之勿之也。御食之令只今之不
之何恤矣食之使以復復不之行温了也。御食之勿食
之故与而所使一趣布代之小节亦以有无如何一之事
之行之不以心竟

天朝仰慕名流以求有之于社稷者不外乎
大金上朝行在会合更布一函以示意之
臣一也臣臣报不拘其意以殊道而保不以
抑其姿素不以而云用之而自用之混合之
生变而得向之毫忽既方今

故正大公明之即布告國之士以少子以財貨物
女嫁也。名不外方而歸有內美也。女歸後反履其室

同相入處之經年少去陽秋不以恩詔之義毫未
忘却而後有大公私混合之希有也由是
於上之待平

奉報
金少水多而令之曰下屬
高局而入賈之故每有難處其長者
而主客皆下屬也亦曰上之主也
之無皆未必而下全之為下外也
高厚深

明治乙巳年六月十三

上
部

嘉慶丙子年秋月
吳昌碩作

卷之二

